

令和6年第2回

大河原町議会定例会（6月会議）

# 一般質問通告書

大河原町議会

令和6年第2回大河原町議会定例会（6月会議）

一般質問通告書

No.	質問者	質問事項	質問の要旨
1番	高橋芳男	1. 子どもにやさしい町づくりについて	<p>最初の質問は、子どもにやさしい町づくりについてであります。</p> <p>子どもにやさしい町づくり事業（Child Friendly Cities Initiative）は、子どもの権利条約を自治体レベルで具現化するための、ユニセフが提唱する世界的な運動です。</p> <p>日本においても、子どもと最も身近な行政単位である市町村等で、子どもの権利条約を具現化する活動として、日本ユニセフ協会が中心になって推進しています。その特徴は、”まち”の人々がみんなでの”まち”を作っていくこと、とりわけ、子どももまちづくりの主体、当事者として位置付けることです。そして今、日本の自治体でもこの取り組みが広がっています。</p> <p>1994年に日本も推進している「子どもの権利条約」では、「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」の4つが、子どもたちが持つ基本的な柱とされています。</p> <p>子どもが一人の人間として扱われ、社会と関わることなしに、安全で安心して持続可能な地域の未来はありません。この事業は、自治体からユニセフへの申請書の提出によって準備・検討できます。</p> <p>この事業の参加を推進・検討すべきだと思うが、町長の見解を伺う。</p>
		2. 軟骨伝導イヤホンの導入を	<p>2番目の質問は、軟骨伝導イヤホンの導入をであります。</p> <p>従来の骨伝導イヤホンとは鼓膜ではなく頭蓋骨を使って蝸牛（かぎゅう）に音を伝える仕組みのことだ。このため、難聴対策にも活用されているものの、対応できるのは蝸牛に伝える部分に発生している難聴で、蝸牛や聴覚神経などの障害には対応できない。難聴者の多くは大きな音を長く聴き続けることで生じる蝸牛内の劣化が根本的な原因となっているようで、骨伝導が効果的なのはあくまで一部の人のみに留まっている。現在のところ骨伝導はあくまでも音を聴くひとつの方法として活用されたりスニング向けであり、難聴対策をうたっているものはほとんどない。</p> <p>軟骨伝導イヤホンは名前は骨伝導に“軟”がついただけで似ているが、骨伝導とはかなり異なる仕組みとなっている。実は、耳は入り口から外耳道の真ん中くらいまで円筒形の軟骨に覆われていて、しかも軽量のため、こちらを振動させることで効率よく音を発生させることができるのだという。これは2004年発表の論文によってあきらかとなり、2017年にはこの技術を応用した補聴器が作られている。</p> <p>当然、メリットも骨伝導と異なる。まず、骨伝導に対して振動素子を強く押さえつける必要がなく、軟骨部分に軽く接触させるだけで音が聴こえるということ。そして、骨伝導に対して音量が大きくしや</p>

No.	質問者	質問事項	質問の要旨
1 番	高橋 芳 男	2. 軟骨伝導イヤホンの導入を	<p>すいことだ。もちろん、耳穴をふさがないので、屋外でも安心して活用できるという骨伝導と共通のメリットも有している。このように、基本的な特徴としては、仕組みの絶妙さで（リスニング用としては）軟骨伝導のほうがやや有利、といえる状況となっている。</p> <p>岸田首相は軟骨伝導イヤホンについて、4月に改正障害者差別解消法が施行されることを踏まえ、「事例として周知する方向で考えたい」と述べた。</p> <p>わが町でも、この軟骨伝導イヤホンを導入、あるいは検討していくべきだと思うが、町長の見解を伺う。</p>
		3. 気象防災アドバイザーの採用について	<p>3番目の質問は、気象防災アドバイザーの採用についてであります。</p> <p>気象防災アドバイザーとは、自治体の防災の現場で即戦力となる者として気象庁が委嘱した防災の知見を兼ね備えた気象の専門家です。</p> <p>自治体に自らのリソースとして活用することで、気象台では手の届きづらい部分まで、よりきめ細かな支援を期待することができます。近年、異常気象による豪雨災害が頻発化しています。ここで異常気象とは、過去に経験した現象から大きく外れた現象であり、今後、地球温暖化等の気候変動により、世界的に異常気象が増加する可能性が指摘されています。</p> <p>昨年の6月2日、三河地方各地に大きな被害をもたらした記録的豪雨において、豊田市街地では2日午後1時までの1時間に35ミリの雨を観測し、道路の冠水などの大きな被害が発生しました。このとき、豊田市では前日の1日のうちに市立学校の臨時休校を決め、2日には市内全域に避難指示を発令するなど、豪雨に見舞われる前に、最大の警戒態勢を取りました。市がこうした態勢を取った背景には、5月31日昼ごろ、豊田市の気象防災アドバイザーからの、「台風の接近に伴い、6月2日から、1時間に50ミリの非常に激しい雨が予想される線状降水帯が形成される懸念もある」との助言でした。</p> <p>この気象防災アドバイザーの長年の知見と気象台の情報を基にした助言を参考に、市は翌6月1日、対策会議を開催。市民の命を守るため、市立小中学校など計104校を2日に臨時休校する方針をいち早く決めました。2日には、アドバイスが的中し、県上空に線状降水帯が発生、激しい大雨により、河川の氾濫や土砂崩れが相次ぎ、市内で100件超の建物などに被害が出ました。1級河川の矢作川も氾濫直前まで増水しましたが、市が最大の警戒態勢を取った結果、人的被害はゼロに抑えられました。</p> <p>わが町でも、異常気象による災害と無縁ではられません、災害を事前に予測して、適切に対応するために、気象防災アドバイザーの採用を推進・検討すべきだと思うが、町長の見解を伺う。</p>

No.	質問者	質問事項	質問の要旨
2 番	万波孝子	1. 賑わい交流拠点施設整備について	<p>令和 10 年 4 月に供用開始予定となっている賑わい交流拠点施設に関して、去る 5 月 8 日、議会全員協議会で担当課から①官民連携手法導入可能性調査結果について②大規模事業評価結果（内部評価）について説明があった。</p> <p>堤内地（田んぼ側）に予定されている賑わい交流拠点施設整備計画の面積は 5.6 ha。町にとっては大型プロジェクトスポーツ施設である。</p> <p>説明資料では、施設整備費は工事費・設計・監理費合わせて約 12.2 億円、施設維持管理・運営費は年額 1.2 億円と試算されている。</p> <p>今、町や議会に求められているのは、直ちに計画の青写真や財政計画案を町民に示し、丁寧に説明責任を果たすこと。町民からの様々な声や意見を集約し、計画に反映させていくことであると考えている。</p> <p>そこで、以下、伺う。</p> <p>(1) 町民に対しては 6/1 付広報やホームページで周知されているがこれで充分だと考えているのか。内容や方法について改めて詳しく伺う。</p> <p>(2) 各集会所、生活センター等で計画の青写真の拡大図を用意し、これを使って丁寧に説明し、町民の生の声を直接聴く場を保障していくべきでないか。併せて全町民を対象にアンケート調査を実施し計画に反映させていくべきでないか。</p> <p>(3) 屋外施設に複合遊具、乳幼児用遊具、児童用遊具を整備する計画でいるが、子育て世帯の声を反映するための手立ては考えているか。</p> <p>(4) 整備されるスポーツ施設は①スケートボード②フットサル③バスケットを考えているようだが、町内の愛好者の声はどのように反映されているのか。</p> <p>(5) 意見集約のタイムリミットの時期はいつか。</p> <p>(6) 施設整備費は工事費約 10.9 億円、設計・監理費約 1.3 億円と算定されているが、積算根拠を示してほしい。</p> <p>(7) 維持管理・運営費は年額約 1.2 億円と試算されているが積算根拠を示してほしい。</p> <p>(8) 全体の施設の中で利用料を考えている施設は何か。各施設の年間収入額はどの位と見込んでいるのか。</p> <p>(9) 宮城県における本事業によって発生する総合的な経済波及効果は、約 48 億円と想定されているようだが根拠を示してほしい。</p>

No.	質問者	質問事項	質問の要旨
2 番	万波孝子	2. 特別障害者手当について	<p>特別障害者手当は 20 歳以上で著しく重度の障害状態にあり、日常生活に常時特別の介護が必要な人に月額 2 万 8840 円（2024 年度）が支給される国の制度である。障害者手帳がなくても申請できるようになっている。</p> <p>支給対象の可能性があるにもかかわらず、制度そのものを知らないため、申請していない状況が見られる。この制度は要介護 3 以上の人なら受給できる可能性があるとは指摘されている。</p> <p>そこで、以下、伺う。</p> <p>(1) 特別障害者手当についての周知はどのようにされているのか。</p> <p>(2) 特別障害者手当についての問い合わせや相談、申請件数、受給者数の状況について。</p> <p>(3) この制度を町民に広く周知するとともに、要介護 3 以上の人なら受給できる可能性があるとは指摘されているので、個別に制度についてのチラシを送付する等、該当する人が漏れなく受給できる環境を整えていくべきでないか。</p>
		3. 学校給食費無償化実現の見通しは	<p>去る 4 月 25 日、住民有志らで作る大河原町の学校給食無償化を実現する会は町長に対し、小中学校給食無償化を求める署名 1604 人分を提出した。</p> <p>昨年 12 月の私の一般質問で、町長は「町内でも無償化への要望が高まっていることは理解している。国の責任において全国一律で行うべき。町民の声を実現のものとしたい思いは実施している首長と同じ。国に実施を要望している」等と回答している。さらに町長は「やらない」とは言っていない。6 月までには方向付けをしたいと言っている。</p> <p>町民の無償化への要望は大きくなっているので決断すべき時期に来ていると考えるが実現の見通しについて具体的に伺う。併せて県に補助制度の実施を求めていくべきではないか。</p>
3 番	佐藤暁史	1. 佐藤屋の活用について	<p>佐藤家住宅（以下佐藤屋）は個人所有の建物で、国指定登録有形文化財である。佐藤屋は町の通りに面して大きな蔵があり、中庭を囲うように屋敷が建てられている。ひな祭りや花見の時期などイベント時に一般開放される。</p> <p>令和 6 年 5 月 14 日に会派がわらの会で、滋賀県豊郷町にある国指定重要文化財「豊郷小学校旧校舎群（以下旧豊郷小）」を視察してきた。旧豊郷小は人気アニメ「けいおん」の聖地として知られており、全国から「けいおん」ファンが聖地巡礼に訪れる。また「君の膵臓をたべたい」など様々な映画の撮影場所にもなっており、豊郷町をアピールする大きな役割を担っている。</p> <p>このように町にある国指定登録有形文化財を上手く活用できれば、新たな観光資源としての役割を果</p>

No.	質問者	質問事項	質問の要旨
3 番	佐藤 暁史	1. 佐藤屋の活用について	<p>たすことが可能だと考える。このことから以下伺う。</p> <p>(1) イベント時に開放する以外に、佐藤屋が一般開放されることはあるのか。</p> <p>(2) 今後、佐藤屋の管理に多少なりとも町が関わることはできないのか。</p> <p>(3) 佐藤屋をコスプレイヤーの撮影やブライダルフォトの撮影場所として貸すなど、新たな活用の方法を模索してはどうか。</p>
		2. 学校施設等の防犯対策について	<p>保育園、幼稚園、小学校、中学校では不審者や侵入者が現れた時に備え、日頃から訓練を行うなど対策を講じている。</p> <p>宮城県内では2021年11月に登米市の認定こども園に包丁を持った男が侵入し逮捕された。また2023年7月に栗原市若柳小学校に軽トラックが侵入し児童3人にケガを負わせた。身近な場所でもこのような事件が起きていることから、いつ本町の学校でも万が一の事態が起きるか分からない。そのために備えが必要と考えることから学校施設等の防犯対策について以下伺う。</p> <p>(1) 保育園や学校に不審者や侵入者が現れ緊急の対応が必要となった場合、通報までの対応や流れなどがあれば示して欲しい。</p> <p>(2) 本町の保育園、幼稚園、小中学校には「さすまた」や「スプレー」が設置されている。これで対策は十分と考えるのか見解を伺う。</p> <p>(3) 緊急事態の対応に当たる職員や教員は、児童や生徒の命を守りつつ自分の命も守らなければならない。心身の負担とリスクは非常に大きいと考えるがどうか。</p> <p>(4) ボタン一つで警察に通報できる「110番非常通報装置」があれば、子ども達の命と職員や教員の命を守ることに繋がると考えるがどうか。</p>
		3. 下校時の熱中症対策について	<p>子ども達の下校の時間帯は、ちょうど日差しが強くなり照り返しも非常に強くなる。低学年の子ども達は身長が低いため体感温度も高くなる。5月時点で向こう3カ月の気温予想が発表されたが、いずれも高いと予想されている。</p> <p>夏季の下校時に見守りをしていると、炎天下を汗だくの子ども達が帰って来る。心配で声をかけると、「熱い」「もう水筒が空っぽ」などの言葉が返ってくる。このように近年の猛暑は下校時の子ども達にとって非常に危険なものとなっている。以前にも同僚議員数名がクーリングシェルターの質問をして</p>

No.	質問者	質問事項	質問の要旨
3 番	佐藤 暁史	3. 下校時の熱中症対策について	<p>いる。これから本格的に暑い季節が始まる。子ども達が猛暑の中で一息つく場所が必要と考えることから以下伺う。</p> <p>(1) 子ども達が下校時に立ち寄って良いクーリングシェルターはあるのか。また学校ではどのような指導をしているのか。</p> <p>(2) 学校や教育委員会で基準を定め、条件を満たすのであれば、子ども達が水を補給できる場所や休憩できる場所として指定することはできないか。</p>
		4. 子育て支援などについて	<p>少子高齢化により人口減少に歯止めがかからない今、この問題は地方自治体だけでなく国全体の大きな問題となっている。2023年4月に「こども家庭庁」が誕生した。「こどもまんなか社会」を実現するため、子どもの視点に立って意見を聞き、子どもにとって一番の利益を考え、子どもと家庭の福祉や健康の向上を支援し、こどもの権利を守るための子ども政策に強力なリーダーシップを持って取り組むことを最重要コンセプトとして掲げている。</p> <p>(1) こどもまんなか社会の実現に向け国や各自治体では、子どもが生まれてすぐ様々な支援を行っている。本町の子育て支援や特定教育・保育施設等の利用者負担で第3子の0歳から2歳児の保育料等について伺う。</p> <p>① 本町の子育て支援及び、第3子への支援として経済的支援等はどのようなものがあるか。</p> <p>② 本町の保育料は国の基準より低く段階も細かく分けられている。しかし一定の所得がある世帯(C5②階層～C15階層)が、子どもを産み育てる場合には保育料の負担は軽くないと考える。なぜなら所得が増えると保育施設の利用者負担が増える仕組みとなっているからである。物価高騰などの影響がある中、この基準に対して町の見解を伺う。</p> <p>③ 同時利用軽減制度に該当する世帯(C4②階層～C15階層の世帯)で、0歳から2歳の第3子が保育料無償化になる条件に「未就学児でかつ動時に施設を利用しているお子さんに対して適用」とある。つまりこの世帯では未就学児を6年の間に3人産まなければ、0歳から2歳の第3子は無償化にならないということになる。この同時利用について町の見解を伺う。</p> <p>(2) 小学校に入学してからは子ども達の健全育成の事業が行われている。本町の放課後児童健全育成事業について以前も質問しているが、再度進捗状況などを伺う。</p> <p>① 本町の放課後児童健全育成事業の対象は6年生までだが、1年生から3年生までが対象だと</p>

No.	質問者	質問事項	質問の要旨
3番	佐藤 暁史	4. 子育て支援などについて	<p>捉えている保護者もいる。その要因をどのように分析するか。</p> <p>② 放課後児童健全育成事業において、学校の教室以外でも使っている教室などはあるのか。</p> <p>③ 昨年6月に夏休みなど長期休業の間、児童クラブでの昼食提供の提案をした。その後同僚議員も同じく質問したが進捗はあったのか。</p>
4番	中村 淳	1. 大河原駅前の今後について	<p>大河原駅東口は、ロータリーが整備され、安全面からも積極的に活用されるべきものと考えているが、送迎の車は西口に集中し、利用客の乗降の際に路肩に停車することから、駅前の混雑や安全面での不安が生じている。改善策の立案等を踏まえ、以下質問する。</p> <p>(1) 東口にロータリーを設置した目的を伺う。</p> <p>(2) ロータリーが積極的に利用されていないという現状の理由をどのように認識しているか伺う。</p> <p>(3) 送迎車の東口への誘導に向けて考えている策があるか伺う。</p> <p>(4) 駅東口利用者が朝夕で、上り方面、下り方面どのような分布になっていると認識しているか。また、そのような統計は、住民サービス、駅前の活性化にとって重要なものと考えているが、調査の計画はあるか伺う。</p>
		2. 原子力災害時における石巻市広域避難計画について	<p>2024年2月21日更新の当計画を見る機会が在ったので伺う。避難先市町村別行政区一覧の中に、当然のことながら、本町も含まれている。人道的観点から必要なことと考えるが、本町の受入体制について以下質問する。</p> <p>(1) 石巻市との間で整合されていると思うが、当然長期避難となるはずだが、鹿又小学校区からの1,300人が対象となる。避難先として総合体育館となっているが、実際に受入可能か。また、その後の仮設住宅建設場所、期間など詳細について石巻市と整合されているか。</p> <p>(2) 受入住民の学童、生徒の受入はどうなるのか。</p> <p>(3) 避難の手段は、自家用車になると思うが、駐車場所はどのように考えているか。</p> <p>(4) 原発が被害を受けている状況で、100km以上の距離とは言え、本町も被害を受けている可能性が大きい本町の町民の避難に総合体育館は使えなくなるが対応は可能か。</p> <p>(5) 合同での避難訓練は計画されているか。</p>



No.	質問者	質問事項	質問の要旨
5 番	丸山 勝利	1. 児童生徒の安全 安心について	<p>少子化の中、国においても異次元の少子化対策を打ち出し、子ども、子育て政策を最重要課題と位置付けた。少子化が進み人口減少が避けられない中、児童生徒が安全で安心して生活できる、成長できる環境が不可欠だと思われる。しかしながら児童生徒を狙った事件や事故に巻き込まれる事案が発生している。4月25日に宮城県内9つの市町の小中学校で給食に出された牛乳を飲んだ児童生徒が体調不良を訴える事案が発生したり、5月13日には気仙沼市の小学校の給食で提供された筑前煮にビニール片のような異物が混入した事案が発生している。また、愛媛県では、5月5日カーブミラーが倒れ歩いていた小学生の頭にぶつかる事故が起きている。北海道では登校途中の小学4年生が車にはねられ死亡するという痛ましい事故も起きている。</p> <p>本町の児童生徒の安全で安心して学校生活を送れるためにも以下質問します。</p> <p>(1) 学校給食について</p> <p>① 学校給食で牛乳を飲んだ児童生徒の体調不良については、原因がわからないまま牛乳の提供をしばらく中止したが、万が一当町で起きた場合の対応や対策は。</p> <p>② 給食を児童生徒に提供する前に各校校長が検食を行っているが、給食センターによる検食状況はどうか。</p> <p>③ 給食センターが新しくなってからの検食及び納入検査での異常及び問題発生はなかったか。</p> <p>(2) 児童生徒の安全な登下校について</p> <p>① カーブミラーが倒れて小学生がケガをした事故を受けて点検などを行ったか。</p> <p>② 毎年通学路検討委員会で通学路などの危険箇所などが出ていると思うが、改善と今後の対策や改善計画はどのようになっているか。</p> <p>(3) 小学校で2年生の男子児童が給食時の消毒の薬品を原液のまま首にかかってしまい火傷を負ってしまった事故に対して</p> <p>① 児童への事故後の対応は適切に行われたか。</p> <p>② 保護者への連絡体制は。事故を受けての今後の対策、対応は。</p>
6 番	高橋 豊	1. 人口減少問題について	<p>国土交通白書 2020 によると、日本の総人口は 2008 年（平成 20 年）の 1 億 2,808 万人をピークに減少に転じている。人口減少は地方自治体に大きな影響を及ぼしており、その対策が急務である。本町も現在急激な人口減少ということには至っていないが、今後は減少する予想となっている。</p> <p>人口減少により生活関連のサービスが縮小され公共交通機関の縮小。空き家や空き店舗など放棄された土地が増加する等、さまざまな問題につながる。本町の対応について質問する。</p>

No.	質問者	質問事項	質問の要旨
6番	高橋 豊	1.人口減少問題について	<p>(1) 少子高齢化の進行が人口減少につながっている。本町におけるこの問題の取り組み、今後の方針について伺う。</p> <p>(2) 人口減少の対策には雇用の創出が必要である。これまでの実績や今後の方針について伺う。</p> <p>(3) 移住定住の支援としてこれまでの実績や今後の方針について伺う。</p> <p>(4) 人口減少の問題は行政サービスの低下にもつながっていく。自治体間格差是正のために広域的な合併や連携が必要になると考える。将来を見据えた取り組みや考え方について伺う。</p>
7番	大沼 忠弘	1.言語教育について	<p>本町の児童生徒の高い学力の維持は教育委員会をはじめ現場の教職員の先生方、関係各位のたゆまぬ継続した取り組みの賜物と受け止めている。</p> <p>学力の中核となるのは読解力の向上にあると伺ってきた。本町独自による暗唱読本の活用や図書室整備等が成果を収めてきたものとこれまでも一般質問、予算、決算委員会等で確認をしてきた。また、英語教育についても桜まつりでは子供たちが積極的に英語ボランティアとし活躍するなど、社会、地域貢献にも大いに寄与する状況が生まれている。ボランティアガイドのように会話を通してお互いに意思疎通できるようになることが英語教育に期待を寄せるところである。</p> <p>本町の児童生徒の学力の高さは教育のブランド化においても肝要である、維持し続けることだけでも容易ではないだろうが、更なる向上に期待をすべく以下伺う。</p> <p>(1) 本年度の学校図書購入費も全体で前年度以上の予算が計上された。どのような選書で数量的にはどれぐらいの購入予定か、また本棚等の什器類は更新等の必要性はないか、現場の要望に込えられているか。</p> <p>(2) 暗唱読本、「寿限無」は小中学校と長期間にわたって使用する副読本であり、読み込めば読み込むほど味わいというか愛着が増すことは確かであろうが、それに伴い劣化もあるものと考えられる。破損等が目立つような状況になった場合の対応はどうなっているのか。</p> <p>(3) 学校図書司書の配置、員数については理想の状況となっているか。</p> <p>(4) イマージョン教育とは、未修得の言語を身につける学習方法の一つであり、修得させたい言語の環境に身を置き、どっぷり浸って、その言語を身につける方法。言語の環境に浸るとは、単</p>

No.	質問者	質問事項	質問の要旨
7 番	大沼忠弘	1. 言語教育について	<p>にその言語を学習するというのではなく、教科などの学習をもその言語で行うことで、自然とその言語を習得していくという方法を指す。現在実施している学校はインターナショナル校をはじめ、そのほとんどが私立学校であるが、2020 年度から愛知県豊橋市立八町小学校において国内で初めて公立小学校において導入された。まだ一般に広く認知されている状況ではないが、こうした学習方法についての見解を伺う。</p> <p>(5) 2022 年 8 月 2 日付で、文部科学省の省総合教育政策局と初等中等教育局が、各都道府県・指定都市図書館・学校図書館担当課長等宛てで、事務連絡「1 人 1 台端末環境下における学校図書館の積極的な活用及び公立図書館の電子書籍貸出サービスとの連携について」が出された。</p> <p>要は G I G A スクール構想により、児童生徒 1 人 1 台端末等の I C T 環境を活用した新しい学びが全国各地で開始されているとした上で、学習活動の充実のため、「学習センター」や「情報センター」としての学校図書館の積極的な利活用を求められた。また、公立図書館との関わりについて、児童生徒に対し公立図書館の電子書籍貸出サービスの I D を一括で発行している事例として大阪府東大阪市「ひがしおおさか電子図書館」と北海道帯広市「帯広市電子図書館」を紹介し、こうした取組は長期休業期間中の児童生徒や、感染症等の非常時に学校に登校できない児童生徒の自宅等での学習においても効果的であると考えている。そして学校設置者と図書館担当部局が連携し、同様の取組の実施について積極的に検討することを要請していることから電子書籍導入についての見解を伺う。</p>
		2. ゴミ処理について	<p>昨年会派の視察で訪れた徳島県上勝町、葉っぱビジネスで有名な町だが、ごみを出さないゼロウェイストの町としても視察が多い自治体となっている。上勝町では従前よりゴミ回収車が走っておらず、ゴミステーションへ持ち込む方式をとっており 13 種類 45 分別と細かな仕分けが必要となっている。そうした町民一人ひとりのごみ削減の取り組みによりリサイクル率 80%以上を達成する現状を生み出している。</p> <p>人口規模、立地、周辺環境等様々本町とは異なる為、単純比較すべきではないのは確かのところであるが、ゴミを資源として捉える視点など参考にすべき点は多々あると感じてきたところであることから以下伺う。</p> <p>(1) リサイクルステーションでペットボトルは回収しているが、キャップを回収しないのは何故か。</p>

No.	質問者	質問事項	質問の要旨
7番	大沼忠弘	2. ゴミ処理について	<p>(2) 上勝町では回収資源毎にキロあたり買取時価価格を表示してリサイクル意識向上に努めている。本町のリサイクルステーションでもやってみる考えはないか。</p> <p>(3) 環境省では、高齢化に伴い消費量が年々増加している使用済紙おむつについて、市区町村等が、殺菌等の衛生的処理をした上でパルプ等の再生利用や熱回収を行うことを検討するための参考となるよう、使用済紙おむつ再生利用等の検討の流れ、取組事例、関連技術、関連規制等を整理したガイドラインを策定した。紙おむつ製造メーカーと共同の実証実験による再資源化やペレット燃料化など各地でその取り組みが見られ始めている。 本町のゴミ処理は仙南広域行政事務組合で行っており、町単独での取り組みというよりは事務組合構成自治体全体としての取り組みが効果的だと考えるが、その可能性についての見解を伺う。</p> <p>(4) コロナ禍で衣類等回収事業も中断されたが、再開の運びとなった。本年度は別々に春に小型家電類、秋に衣類となっているが次年度以降回数を増やす考えはないか。</p>
		3. カプセルトイやトレーディングカードでまちのPRについて	<p>カプセルトイ、俗に言うガチャガチャと呼ばれる商業施設等で見かける玩具の自販機で販売されるもの。</p> <p>2023年6月のおもちゃショーで玩具協会から発表された数値によれば、2021年ガチャガチャの売市場規模は450億円、2022年は610億円となっており、マーケットとしても成長していることは見過ごせない。</p> <p>2022年に設立された一般社団法人日本ガチャガチャ協会では地元の商店街や観光地をガチャガチャでPRできる「地元ガチャ」の制作から設置まで一貫してサポートする自治体向けサービスの提供を開始した。地元ガチャはその商店街や観光地でしか手に入らない、特別なガチャガチャ。その町に来た思い出として何かを持ち帰ってもらう、それがガチャガチャという無作為で何が出るかわからないお楽しみ、エンタメ性を持ち合わせることができるものとする。</p> <p>茨城県では「茨城デスティネーションキャンペーン」の一環として制作された旅館の女将カード、ポップコーンのオマケとして付けたものがSNS等で話題となりマスメディアでも大きく取り上げられていたり、青森県では地元の漁師さんたちが青森県産の水産物に関するPR活動として漁師カードを作成したものが話題となり、水産品の消費拡大にもつながった。本町でもマンホールカードを発行しており、コレクターの方々のカード収集を目的とした来</p>

No.	質問者	質問事項	質問の要旨
7番	大沼忠弘	3. カプセルトイやトレーディングカードでまちのPRについて	<p>町が確かにある。 カプセルトイやカードは必ずしも万人受けする類のものではないが、ファン層にとっては大変吸引力を持ったアイテムと言えるものと考えことから以下伺う。</p> <p>(1) 地元ガチャを作成してまちのPRにつなげてみてはどうか。</p> <p>(2) 本町、あるいは仙南圏の自治体も含めた範囲でトレーディングカードを企画、展開してみるのはいかがでしょうか。</p>
8番	山崎剛	1. 町内一斉清掃日の変更を	<p>5月19日(日)は町内一斉清掃日でした。快適で住みよい環境づくりのため、町ぐるみで町内の環境美化を図るとともに清掃を通じ地域の方々との交流できた日でもありました。前日は町内3小学校の運動会があり、子どもたちは疲れも見せず、親子で、清掃を手伝ってくれました。親同士の会話の中で「どうして、小学校の運動会の翌日に町内清掃日が設定されているのか」「運動会の日も早かったし、運動会が終わった翌日は家族がゆっくり日曜日を過ごしたい」「予定を組んでいるのに」「町内清掃日を前の週か次の週に変更できないか」の要望を耳にしました。</p> <p>今回の質問にあたり町民の声の代弁者として、来年度5月の町内清掃日の変更ができないものか伺います。</p>
		2. 各種スポーツホームゲーム観戦チケットプレゼントについて	<p>昨年11月28日、ベガルタ仙台のホームタウン訪問事業として、鎌田大夢選手と小出悠太選手が大河原小学校を訪れ4年生の児童と交流しました。リフティング・パス・シュートなどの実技披露とプロサッカー選手の迫力のあるプレーを間近で見て釘付けになっていました。その後も質問コーナーでは、たくさんの児童の質問にも笑顔で丁寧に答えていただき大いに盛り上がりました。約1時間の短い時間でしたが、児童にとっては充実した貴重な経験となりました。(広報おおがわらから抜粋)</p> <p>楽天イーグルスの下部組織でセレクションを勝ち抜いた中学生32名の中で東北楽天リトルシニアに所属する島貫有晟さん(大河原中学校1年生)、2人目はNPB12球団(日本野球機構)ジュニアトーナメントで東北6県の少年野球選手の中から選抜される16名で構成される楽天ジュニアに選出された瀬古玲聖さん(大河原小学校6年生)です。がわらリンクで紹介されております。2人とも将来はプロ野球選手になりたいと思っているそうです。</p> <p>町長の施政方針で、スポーツを活用したWell-beingなまちづくりで町民誰もがスポーツに親しむことができる環境づくりや健康増進、スポーツを通じた交流の創出や地域活性化のための取組を推進します。各種スポーツ大会・スポーツ教室を通</p>

No.	質問者	質問事項	質問の要旨
8番	山崎 剛	2. 各種スポーツホームゲーム観戦チケットプレゼントについて	<p>して、関係団体と連携し各種スポーツイベントを実施するとともに、宝くじ社会貢献広報事業を活用しオリンピック等によるバレーボール教室や親善試合を開催するほか、プロスポーツ団体との連携により、町民がハイレベルなスポーツに触れる機会を創出しますとあります。</p> <p>広報おおがわら5月1日号に「ベガルタ仙台のホームゲームにご招待します。」と載せてありました。2024年6月開催のベガルタ仙台ホームゲーム1試合にご家族1組様分の観戦チケット引換券をプレゼントするとあります。「Well-beingなまちづくり」を今後も実践していこうとする段階で「スポーツ健康まちづくり優良自治体表彰」を逸早く受賞した本町がベガルタ仙台の観戦チケットの数の少なさに大変残念に思います。</p> <p>本来ならば子ども達の夢・町民がハイレベルなスポーツに触れる機会を創出しますと思うのであればサポートすることがスポーツスポーツを活用したまちづくりのプロジェクトとなるのではないのでしょうか。「一歩先を行く選ばれる先進のまち」を目指していくのであれば、今後野球の楽天イーグルス、サッカーのベガルタ仙台、バスケットボールの仙台89ERS（エイティナイナーズ）等のプロスポーツの試合を多くの観戦チケットをご家族にプレゼントを推進すべきではないのでしょうか。子どもたちの目指す未来のゴールに向かって、町長のご見解を伺います。</p>
9番	大沼 常次	1. 賑わい交流拠点施設整備・運営に係る官民連携手法導入可能性調査の結果から見た今後の基本計画の進め方について	<p>令和4年に賑わい交流拠点施設整備・運営に係るサウンディング調査が実施され、同5年には賑わい交流拠点施設整備・運営に係る官民連携手法導入可能性調査が行われた。</p> <p>先般、この官民連携手法導入可能性調査結果については先般の全員協議会において説明が行われ、様々な観点から意見や疑問点などが出された。</p> <p>個人的には更なる詰めの議論の場が必要と考えるが、町の基本的な考え方、姿勢について質問する。</p> <p>(1) 令和4年度に行われたサウンディング調査では、町が提示したコンセプトを基にした基本プランでは、整備地の立地条件から収益性が見込みにくく、民間事業者による独立採算型事業としての実施は困難である。</p> <p>したがって指定管理料等、町からの財政支援が得られなければ運営面での民間事業者の参画は困難であるとの調査報告がされている。</p> <p>このことについて、昨年3月会議において町長は「今後の事業の進め方といたしましては、事業手法の詳細な検討として、内閣府で支援を行っている「令和4年度民間資金等活用事業調査費補助事業」へ応募し、採択されたところでございます。この調査では、町が従来方式で事業を進めた場合と官民連携により事業を進</p>

No.	質問者	質問事項	質問の要旨
9 番	大沼常次	1. 賑わい交流拠点施設整備・運営に係る官民連携手法導入可能性調査の結果から見た今後の基本計画の進め方について	<p>めた場合の比較検討を行い、どのような事業手法が本事業に適しているかの判断指標とするものでございます。調査結果により官民連携のメリットが示されれば、事業内容について民間から提案していただくような公募を行うことにより、集客性や収益性のある持続可能な事業になるか考えてまいる所存でございます。」と答弁している。</p> <p>サウンディング調査の結果をどのように捉えているのかを質問したが、「今後の事業の取組に大いに参考になる内容であると考えている」と直接の論評はされずに、今後の事業手法に話をすり替えている。</p> <p>あえて、再度質問します。事業性がない計画と酷評された事業をどのように進めていく考えか。</p> <p>(2) この事業の基本コンセプトは「千本桜を千年先へ」なのか、それとも「スポーツを通してWell-beingなまちづくりを推進すること」なのか、仮に両方だとすれば事業としてのねらいが希釈させるものとするのか。</p> <p>「千本桜を千年先へ」は基本理念としておさえ、最優先に考えるべきは、「予定地にいかにして賑わいのある施設を造るべきか」ではないかと思うが如何か。</p> <p>(3) 「賑わい交流拠点施設」というからには、平日にもある程度の集客が見込まれる必要がある。施設の屋外には広大な面積を占有して、アーバンスポーツと呼ばれるスポーツ競技の施設、エリアが計画しているが、平日の利用者はいると想定しているのか。休日にしても利用料まで払ってその施設を利用する人がいると想定しているのか伺う。</p> <p>(4) 「賑わい交流拠点施設」のメインとなる建屋に入る機能としては、初期の段階では一目千本桜関連の展示、レンタサイクル、カフェコーナーという構想は聞いていたが、こんな程度の施設では到底集客など望めないと思われる。この施設に来ないと、買えない、味わえない、体験できない等、人を引き寄せる魅力がなかったら、賑わいをつくり出すことは困難である。</p> <p>この建屋にどのような機能を持たせるのか、どのような手順で決める予定でいるのか伺う。</p> <p>(5) 賑わい交流拠点施設の施設計画において、本調査の受託事業者から、町が提示してきた基本プランを修正したものが出されている。</p> <p>この調査には1,000万円以上の経費をかけて行っているにもかかわらず、遊具広場をキッチンカースペースとかフットサルコートを屋根付き</p>

No.	質問者	質問事項	質問の要旨
9 番	大沼常次	1. 賑わい交流拠点施設整備・運営に係る官民連携手法導入可能性調査の結果から見た今後の基本計画の進め方について	<p>のテニスコートへの兼用、しまいにはスケートボード施設を更に拡大して調整池を予定していたところまでスケートボードセクションに充てる提案には、これが1,000万円もかけた調査結果なのかと思うと、騙された感を感じるのは私だけだろうか。</p> <p>町長は、この受託事業者からのこの程度の検討プランの提示について、どのような感想を持たれたのか伺う。</p> <p>(6) 民間事業者が希望する事業手法では、多くの事業者が事業リスクの低いサービス購入型を希望し、収益施設については、その収益性を勘案し、通年ではなく時間や曜日を限定した営業、カフェブースに至っては通常は自動販売機を複数台において対応するというヒアリング調査が出ている。これで本当に「賑わい交流拠点施設」と言えるのか、伺う。</p> <p>(7) 本事業に係る概算事業費の算定では施設整備費に、およそ12億円(実際は15億円)、維持管理・運営費として年額1.5億円。月に換算すると1か月1,000万円超というのは余りにも高額であり、これが15年にわたって続くとなると熟考すべき考えるが如何か。</p> <p>(8) 同調査報告書によると、宮城県における、本事業によって発生する総合的な経済波及効果は約48億円と想定されているが、その根拠、データを示してほしい。</p> <p>(9) 同調査の主眼であるVFMの算定であるが、これを見ると従来手法に比べると確かにPFI手法、DBO手法とも優位性はあるように報告されているが、その差はほんの数%であり、これをどのように評価しているか伺う。</p> <p>(10) 受託事業者は今回の調査報告をするにあたり、民間事業者から参画意向調査をおこなっているが、そのまとめでは「事業スキームの詳細については、整備を想定している収益施設の採算性を懸念する意見が多く、どの程度の施設を町側の要求事項とするか、検討が必要である。」と記されている。このことをどのようにおさえているか。</p> <p>(11) 町では、大河原町大規模事業評価の実施に関する要綱第3条に基づき、内部評価を行い、全員協議会において、その評価結果が報告された。この内部評価を行った委員会の構成員は庁議の構成員となっているので、この議場に座っている各課の課長のみなさんです。</p> <p>8つの評価項目すべてにわたり「必要であ</p>



No.	質問者	質問事項	質問の要旨
9 番	大沼常次	1. 賑わい交流拠点施設整備・運営に係る官民連携手法導入可能性調査の結果から見た今後の基本計画の進め方について	<p>る」「適切である」というような肯定的な意見でまとめられており、正直、本当ですかと問いたい。不安や懸念される事項は山ほどあると思っている私などは猜疑心をもった人間なんだろうかと思ってしまう。</p> <p>庁議に参加された方々の中にも、多少なりとも本事業についての憂慮事項を持っている方はいると信じたいのですが如何か。</p> <p>(12) 本事業は、本町にとっては大規模公共事業であり、その予算規模も莫大であり、そのランニングコストも高額になるものと試算されている。施設を造って終わりの事業ではなく、施設が完成して「賑わい交流拠点施設」として開業してからが本当の正念場を迎えるものと思っている。</p> <p>この施設に町内外の人たちが来場してくれて、施設内の各種サービスを利用してくれることを願っているが、仮にそうならなかったら、この事業の提案者である町長、そして、その提案を承認した我々議会議員の責任は大変大きいものと思っている。最終的に決めたのは議会であり、政治には結果責任を伴うということからすれば、この事業に賛成した議員には大きな政治的責任を負う必要があると考える。</p> <p>提案者である、町長は町行政の責任者として、そのようなことにならないように努めていくことは当然であるが、仮にそうなった場合の覚悟を伺う。</p>